

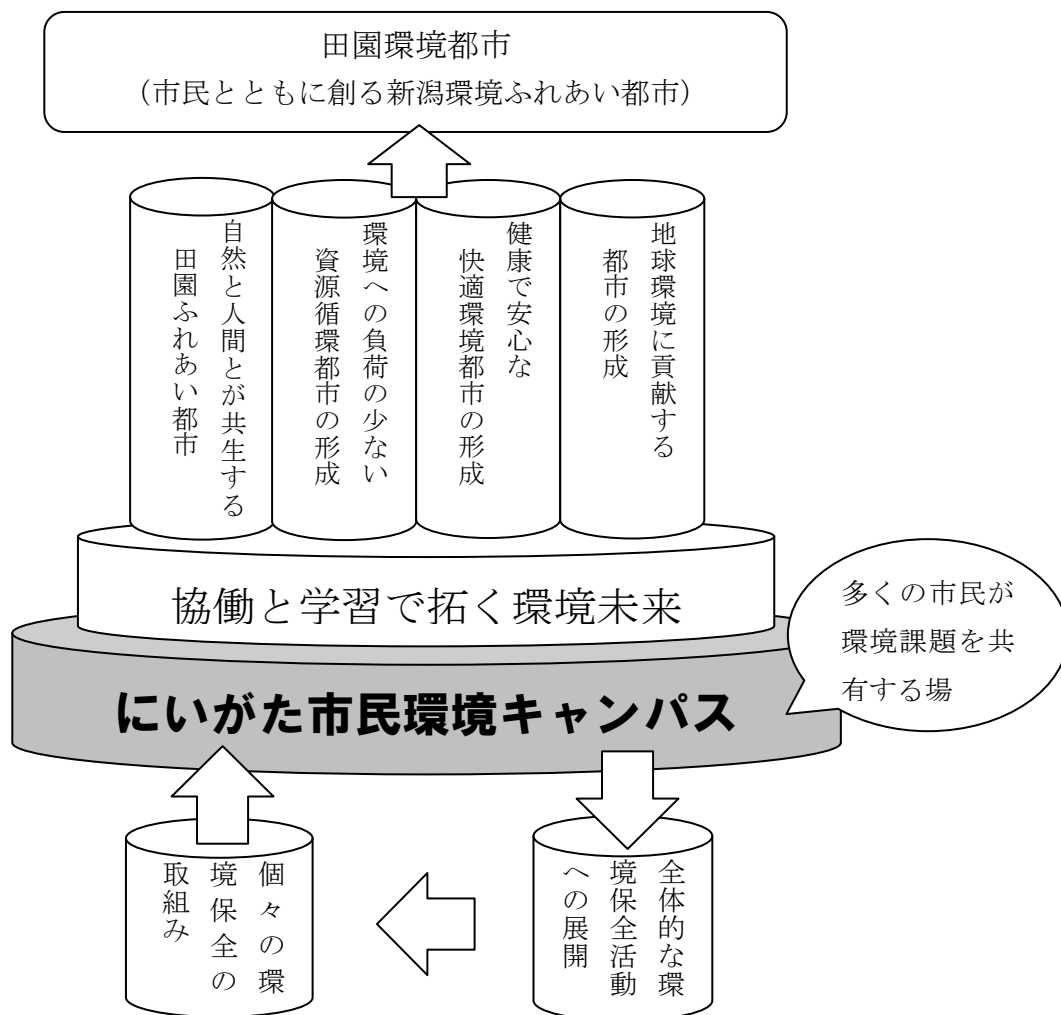
にいがた市民環境キャンパス構想

協働と学習で拓く環境未来のために

平成22年8月

新潟市環境部環境政策課

1 概要



(趣旨)

新潟市環境基本計画では、健康で安心な生活を送るとともに、水辺や里山、田園など自然を保全し、触れ合うことにより、安らぎと潤いを得ることができる「市民とともに創る新潟環境ふれあい都市」の実現を目指しています。

そのアプローチとしては、本市が持つ多様な自然環境の保全、新潟水俣病などの公害への対応、資源やエネルギーの地域的な循環による環境保全から、行政区域の枠組みを越えた地球環境問題への協力など様々な領域があります。

このように複雑・多様化する環境問題に対して、これまでの個人主義を前提にした、主に関心ある市民や行政主導型での社会システムでは対応しきれない状況も見られます。

そこで、市民が“無事”な暮らし、居心地の良い暮らしを続けていくために、環境問題を自らの問題として捉え、生活する地域及びその枠を超えて積極的に関わり、課題を共有することができる場づくりを進め、身近な取り組みを行っていきける“ひとの輪”を拡げていきます。

にいがた市民環境キャンパスとは、特定の建物や場所ではなく、市民のだれもが市内のどこでも学習・交流・連携・協働できる場を指します。

2 背景

- ・大量生産，大量消費型の社会経済活動の反省と持続可能な社会を求める価値観の広がり
- ・スローライフ，LOHAS^{※1}など生活の質に重きをおいたライフスタイルの提唱
- ・「国連持続可能な開発のための教育の10年」^{※2}の実施計画を採択

3 目的

多くの市民が環境問題を身近な問題として認識し，他者と連携することでより楽しく環境問題に関わり，環境課題を共有することができる場をつくること，また，それによってできた身近な取り組みの“ひとの輪”をさらに広げることが目的とする。

<目指す社会>

個人が自立するとともに，自然と人間との関係，人間同士の関係を楽しむ「連携した市民」による持続可能な社会。

4 課題

【環境に関心のある市民が固定化】

- ・環境問題を身近なものとして考えられない。
- ・もっと基礎的なことが知りたいのに，専門的過ぎて分野に入り込めない。
- ・どのように環境学習情報を集めたらいいかわからない。

【行動へつながらない】

- ・関心を持ったとしても，どのようにアクションすればいいのかわからない。
- ・行動するため，人とのつながりを持ちたいが，誰（どの団体）が何を行なっているかわからない。
- ・リーダーとなる人材が不足している（存在が知られていない）。

※1 LOHAS (Lifestyles Of Health And Sustainability) : 健康と持続可能な社会を志向するライフスタイルの略。

※2 国連持続可能な開発のための教育の10年 : 2005年からの10年間，持続可能な社会の実現に向けて，意識や行動を変革するために必要な教育の推進を図る国際的取り組み。わが国の提案により，2002年12月の国連総会で決議された。

5 方 策

【新たな関心の喚起】

- ・ 環境問題を日常の問題として気づききっかけづくり
- ・ 市民，事業者，大学，行政の環境学習情報の一元化
- ・ 基礎的なことから応用，活動にいたるまでの環境情報の提供

【行動への誘導】

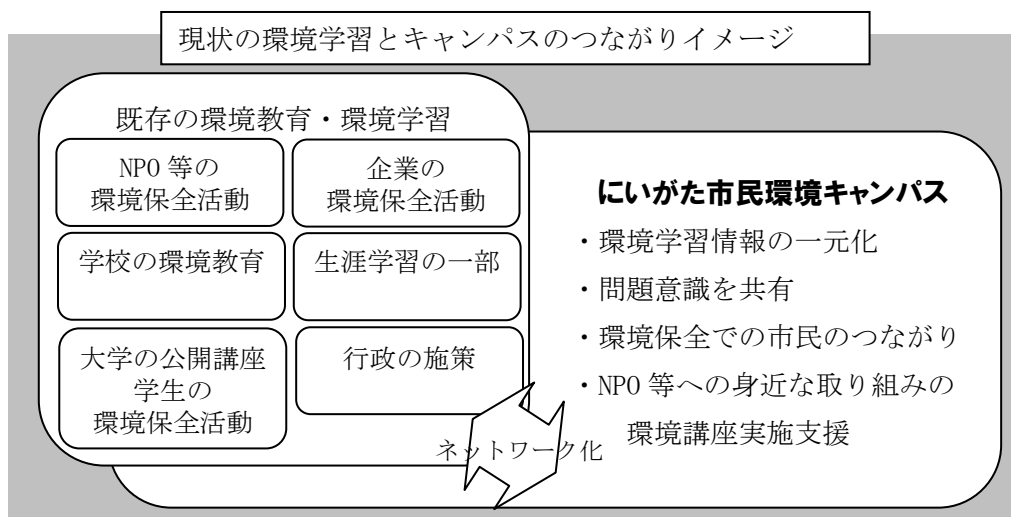
- ・ 市民，団体が様々な問題意識を気軽に持ち込め，意見を交換し，認識を共有できる連携の場の創出
- ・ 市民，団体同士のつながりや身近な取り組みの広がりを作り出せる場の創出

- (1) 情報を発信するツールの構築－【新たな関心の喚起】を目指して－
情報が市民に行きわたる仕組みづくりを行う。

新潟市環境総合サイト「エコやろてば！」の開設と運営

- (2) 現場のネットワークの構築－【行動への誘導】を目指して－
活動している市民・団体をつなぎ，連携の場や学ぶ機会を提供する。

「にいがた市民環境キャンパス」の設立



6 運 営

にいがた市民環境キャンパス活動の考え方

- 1 環境問題を様々な視点で考える
環境問題は、大気や水、みどり、ごみ、地球温暖化、エネルギーなど多岐にわたる。
- 2 多くの市民を対象にする
幼児から高齢者、市民・事業者・大学・行政など様々な人が学習対象となる。
- 3 継続して行う
環境学習を生涯の問題（学習）として扱う。
- 4 連携して行う
特定の場所だけでなく、様々な場所で環境学習は行われることから、多くの主体が身近な取り組みを連携して行う。

(1) 運営の方法

様々な立場の市民（知恵）が集まり、交流、連携し、協働して運営。

(2) 推進体制

環境保全のための活動をしている市民、団体をつなぎ、連携の場や学ぶ機会を提供するための推進組織としてキャンパスの推進委員会及び実行委員会を組織する。

ア 推進委員会

にいがた市民環境キャンパスの統括組織として、年間の運営方針や実施事業の確認・評価を行う。

構成員は準備会委員を核とし、NPO・企業・大学など団体からの代表者数名。

イ 実行委員会

環境学習情報の収集や提供、具体的事業の企画、運営などを行う実働組織。

構成員は趣旨に賛同する個人及び行政の関連事業担当者。事業ごとに参画希望者を募る。

